臨床研修センター

＜スタッフ紹介＞

役　　職	スタッフ名
診療局次長兼内科統括 兼総合内科・感染症内科主任部長 兼感染症センター長兼臨床研修センター長 兼院内感染対策室長兼産業医	倭　正也
血液内科部長兼臨床研修副センター長 兼輸血・細胞治療センター長	釜江　剛
救命診療科医長兼臨床研修副センター長 兼救命ICU室長	福間　博
参事兼事務局総務監	田中　準二
事務員	2 名

研修医	研修医
天野　将明	杉森　智之
内田　真結美	田邉　大二朗
西　佑梨	龍　昌慶
今井　伸一	川崎　実代
久保　凜英	鈴木　美紀
谷　瑞輝	南出　祐典
牧野　源生	渡邉　慧太
榎本　有華	鄭　裕美

＜特色と概要＞

2019年10月に前期研修、後期研修、医師の生涯研修をより充実したものとし、研修医、専攻医にとって魅力ある臨床研修プログラムの構築を行うことを目的に臨床研修センターを開設した。

これからの臨床医は前期研修・後期研修での経験をもとに、多彩なキャリアパスの中から自分の目指した医師像に近い道を選択していくこととなる。それは地域医療への貢献や高度先進医療の実践あるいは研究者としてのアカデミズムの追求などである。これらの基礎となる臨床能力を十分に養うため、そして研修医の意見も取り入れて、分野横断的な教育・研修を推進していく。さらに、このような研修を通して、人格を養い、技量を習得し、さらにリーダーシップの発揮できる医療人になれることを目標とし、研修医が思い描いている「理想の医師像」に着実に近づいていけるようにサポートしていく。

【研修理念】

地域医療から国際診療までを担える視野を持ち、安心かつ良質な医療をチームと協調して提供できる総合力と人格を育む。

【研修基本方針】

患者の心身を預かるにふさわしい人格を育む
全人的に対応できる総合力を育む
チーム医療を実践するリーダーシップを育む
地域医療と共に国際診療を担う広い視野を育む
生涯にわたり、学び続ける気概と探求心を育む

＜実績＞

上記、目標を目指しての研修医教育や環境等が十分に研修に値するとして、外部評価機構である卒後臨床研修評価機構(JCEP)による認定を受けている。

学会発表については、1年目および2年目の研修医全員が1回以上の発表を行った。さらに、2年目の西佑梨先生および杉森智之先生が、それぞれ優秀賞を受賞した。

＜今年度の成果と来年度への抱負＞

1.院内研究発表会

学会発表の前後に実施し、内容のブラッシュアップや振り返りを行った。

2.りんくう生涯教育セミナー

「りんくうカンファレンス」と「クリニカルレベルアップセミナー」を1つの研修講演会に統合した。

3.研修について

①座学：週1-2回とし、福間副センター長や2年目研修医によるレクチャー

②手技の実習

サザンウィズでシミュレーション機器を利用：採血、気管挿管、縫合など

③救急車同乗実習

泉州南広域消防本部の協力のもと、救急車に同乗し、見学を実施した。

④関西国際空港災害訓練

関西国際空港で実施された、航空機事故医療救護活動部分訓練に参加し、トリアージ担当を担った。

4.採用活動について(レジナビfair)

レジナビの現地開催に参加し、200名を超える来訪者に対して病院説明を実施した。また、オンライン説明会にも2回参加し、延べ113名の視聴があった。

5.マッチングについて

STARS4名、広域連携型プログラム1名の計5名がフルマッチとなり、16年連続でフルマッチを達成した。

また、調査票の結果に基づきベース値から1名の増員が認められ、令和9年度の募集定員は、STARS5名、広域連携型プログラム1名、地域重点プログラム1名の計7名となった。

6.広域連携型プログラムの新設

医師多数県の基幹型病院（連携元病院）に採用された研修医が、医師多数県における研修を中心としつつ、医師少数県等の臨床研修病院（連携先病院）においても24週またはそれ以上研修するプログラムを新設した。

【抱負】

来年度以降は、現在実施している研修体制の定着と質の向上を図り、継続的な改善に取り組む。

また、募集定員の維持およびさらなる増員を目指す。